

68年3月、義務的教育、受験勉強、両親そして家と街、私を悩ませた束縛を解き放ち晴れて単身東京へと向かった先は銀座のヤマハ、東京ーと言われたレコード店であった。思えば芦屋ではFENを聴くのに一苦労であった。FENとはアメリカ駐留軍向けの「極東放送」のことであるが、岩国、厚木といった遠方からの雑音混じりのスピーカーに耳を寄せ目を細め、当時唯一の新着情報源に聴き入ったものである。元町のヤマハとは比べようもない店内で感激の新着輸入盤、選び倦めた末に出した最初の結論がこの2枚だった。

サイモン&ガーファンクル(S & G)は一世代を風靡したフォークロック・デュオ。65年暮れのメジャーデビュー「サウンド・オブ・サイレンス」から僅か3年だが、映画「卒業」以前である。B面はヒット集だがA面でアメリカの老人問題にスポットをあてたコンセプトがモノクロのジャケットにも表れ、当時のポップスからみれば流行に組み込まない大人のアートなものになった。一方のザ・サークルはデビューヒット「レッド・ラバー・ボール」で、66年全米No.2位となるも伸び悩んだ。FENで必死に録音したアルバム収録曲「アイ・ウィッシュ・ユー・クッド・ビー・ヒア」は全米No.50位程度では誰も振り向かないだろう。しかしこの両曲、実はサイモンの不遇時代、単身イギリスにわたり当時人気が出たシーカーズのB・ウッドレーと共作した数少ないスペシャルブレンドの名曲。

アルバムはたとえ無名の一曲でも気に入れば、あとはジャケットが決め手だ。ギャンプルに失敗は常だが「環」のデザインに賭けた。中身は名人J・サイモンのプロデュースによる楽しくも哀しい珠玉の全ラブソング、再発されたCDをも買ってしまう程であった。



サイモン&ガーファンクル/ブックエン 1968



サークル/ネオン 1967

トークアバウト・・・とは、「・・・の話なら」、「・・・っていえば」から「最高の・・・!」とか「すごい・・・!」という意味に転じる はなし言葉です。文化の様々な面について考えている建築家を中心とする方々のエッセイ、いずれはきっと建築設計と結び付く「とっておきの話」となることでしょう♡

平成11年7月号
平成11年7月1日発行
JIA 近畿支部住宅部会
代表世話人 小南一郎
委員長 星野康彦 編集長 市居博

執筆者連絡先

- 市居博 (いちい・ひろし) 市居総合計画事務所・大阪市西区靱本町1-18-8本町ウツボビル TEL 06-6449-7797
- 彼末れい子 (かれすえ・れいこ) 坂倉建築研究所/橋本健治・大阪市西区京町堀1-15-7 TEL 06-6443-0021
- 小南一郎 (こみなみ・いちろう) 小南一郎建築研究所・大阪市淀川区西中島4-4-25-1012 TEL 06-6303-0563
- 鈴木道子 (すずき・みちこ) MIA. ARCHITECT・大阪市西区京町堀2-14-20 OFMAウツボビル909 TEL 06-6445-9671
- 豊田弘也 (とよべ・ひろや) 豊田建築事務所・大阪市北区西天満5-3-10高橋ビル北2号館7F TEL 06-6362-2045
- 林進 (はやし・すすむ) 岐阜大学農学部教授・TEL 058-230-1111
- 星野康彦 (ほしの・やすひこ) 寺崎興建築士事務所・大阪市阿倍野区阪南町テラスキビルTEL 06-6622-8627